

本年度も学校関係者評価・第三者評価の機会を次のように複数回設ける。

I 学校関係者評価・第三者評価 委員会（幼小中高合同）

- ①令和7年11月28日（金） 10:00～12:00
- ②令和8年 2月26日（木） 9:00～10:30

II 地域関係者による学校関係者評価委員会（小学校）

- ①令和7年10月17日（木） 9:00～ 10:00

III PTA 関係者による学校関係者評価委員会（小学校）

- ①令和7年 6月12日（木） 10:30～12:00
- ②令和7年10月15日（木） 10:40～12:10
- ③令和8年 2月 3日（火） 9:50～11:10

それぞれにいただいた評価を次にまとめ、報告する。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会

I-①

1. 実施日時

令和7年11月28日（金）10:00～12:00

2. 概要

はじめに当日の流れを確認した後、各校種の授業を参観いただき、その後、年間の取組状況について報告し、評価者よりご指導・ご助言をいただいた。

3. 評価者

前田 康二 先生（奈良教育大学 教職大学院 教授）

4. 出席者

安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、高塚小学校長、槇幼稚園園長
立花中学校教頭、吉岡事務長、三笠高等学校教頭（司会）、山川小学校教頭（記録）

5. 評価内容

① 各校種からの報告（重点取組）

※全校種の定める中期計画をもとに、重点取組について報告した。

(1) 幼稚園

- ・説明会・体験機会の充実等を通じて、保護者への情報提供および信頼関係の構築に努めている。加えて、未就園児とその家庭に向けた取組を継続し、園の魅力発信を強化している。
- ・基本的生活習慣の定着や異年齢交流を通じて、社会性・協調性等の育成を図っている。
- ・マーチング、英語活動、伝統文化体験等、特色ある教育活動を展開し、表現力や感性の育成に取り組んでいる。運動面でも多様な活動を取り入れ、体力向上を図っている。
- ・教職員研修の充実、若手育成、園児の安全・安心に関わる取組(防災・配慮事項への対応等)を継続している。

(2) 小学校

- ・内部進学制度の充実とあわせて、学校説明会等を通じた情報提供を継続し、広報活動の質的向上を図っている。
- ・学習面では、表現力や論理的思考力の育成に重点を置き、授業改善や各種取組を進めている。
- ・異学年交流や縦割り活動等を通じて、児童同士の関わりを深め、社会性・共感力の育成に取り組んでいる。
- ・ICTの活用や個別最適な学びの工夫等、時代に即した学びの在り方を継続して検討している。

(3) 中学校・高等学校

- ・募集・広報活動の充実を図り、受験生・保護者に対する情報提供の機会を確保している。
- ・授業改善・教員研修の取組として、授業交流や研究授業等を実施し、指導力向上を図っている。
- ・学習支援の取組を継続し、生徒の学習習慣の形成や学力向上につながる支援体制の充実を図っている。
- ・進路指導や大学等との連携を通じて、生徒の学習意欲・進路意識の向上を支援している。
- ・探究学習では、連携活動や自由テーマでの探究等を通じて、思考力・協働力・コミュニケーション力等の育成に取り組んでいる。
- ・幼・小・中・高の学びの系統性や発達の連続性を踏まえ、ルートマップの見直し等、教育課程の改善を進めている。

② 授業参観による所見

- ・いずれの校種においても、教師と子ども、子ども同士の関係性が良好で、安心して学べる学習環境が形成されていることが印象的であった。
- ・幼稚園では、年齢発達に応じた活動が丁寧に組み立てられ、体験を通じた学びが展開されていた。
- ・小学校では、教員と児童の双方向的なやり取りや、児童同士の意見交流が活発であった。
- ・中学校では、ICTを活用しつつ、表現活動・発表活動と教員のフィードバックが効果的に組み合わせられていた。
- ・全体として、ICT活用に偏りすぎず、「対話」や「つながり」を重視した教育が実践されている点が確認された。

③ 各校種の取組に関する助言(要旨)

- ・12年間一貫教育の連携をさらに強化し、各段階の学びの接続をより具体的に示すことが望まれる。
- ・授業を第三者に参観してもらい助言を得る機会を継続的に確保することで、授業改善と教員の指導力向上につながる。
- ・各校において「学び」「体験」「生活」「社会との関係」をキーワードとした教育活動の質的向上と体系化を進めることが今後の課題である。

④ その他

今回は、令和8年3月5日(木)に、1年間の教育活動についてご意見をいただく方向で調整した。

I-②

1. 学校関係者評価実施日 …令和8年2月26日(木) 9:00~10:30

各校種から令和7年度の総括の報告を行い、その後、各校種の総括についてのご指導をいただいた。

2. 評価者:前田 康二 (奈良教育大学 教職大学院 教授)

3. 出席者: 安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、高塚小学校長、槇幼稚園園長

立花中学校教頭、吉岡事務長

三笠高等学校教頭(司会)、山川小学校教頭(記録)、小学校教頭日比

4. 評価結果

①各校種(幼稚園、小学校、中学校・高等学校)からの報告

全校種の年度末分掌・委員会総括表をもとに今年度の取り組みや次年度に向けての課題を報告する。

幼 稚 園

【教務部】

- ・園内研究保育や各種研修を計画的に実施し、教職員の資質向上に努めた。外部研修の成果共有も進めた。
- ・小・中・高と連携し、カリキュラムルートマップを改訂。学びの連続性の検証を進めている。
- ・大学との共同研究を通して自然体験活動等を実施し、教育内容の充実を図った。
- ・幼小連携を強化し、円滑な進学につながる取組を推進した。内部進学において一定の成果が見られた。
- ・預かり保育の利用増加に対応し、内容や体制の充実を図った。

【総務部】

- ・絵本環境の整備を進め、日常保育における活用を促進した。

【保健部】

- ・基本的生活習慣の定着に向けた指導を継続。保護者との連携体制を整えた。

【給食委員会】

- ・残食状況の把握と情報共有を行い、献立改善につなげた。

【広報部】

- ・体験入園や未就園児向け活動を充実させた。
- ・SNS や動画等の活用により情報発信方法の多様化を図った。

小 学 校

【教務部】

- ・内部進学対応等に関する業務の標準化を進め、指導体制の安定化を図った。

【生徒指導部】

- ・登下校班活動の充実により安全意識向上を図った。
- ・児童主体のルールづくりの機会を設け、自律的な規範意識の育成に努めた。

- ・公共マナーの継続的指導を課題とする。

【総務部】

- ・修了式の在り方を見直し、学年の成長を祝う温かな式として午前中開催へ変更した。
- ・中高との行事連携を推進した。

【研究研修部】

- ・全教員が研究授業を実施。夏季研修も実施した。
- ・次年度は外部講師を招いた専門研修を計画している。

【保健部】

- ・食育活動や残食調査等を実施し、食への関心向上を図った。

【広報部】

- ・説明会・体験行事を継続実施。デジタル広告や SNS 活用により認知度向上を図った。

【情報管理】

- ・生成 AI や ICT 活用に関する研修を実施。
- ・情報モラル・デジタルシティズンシップ教育の充実を進めている。

【総合(ユネスコ)】

- ・宿泊学習を軸に平和・環境・国際理解教育を推進。
- ・非認知能力の可視化にも取り組んだ。

【総合(キャリア)】

- ・キャリアパスポートを整理し、振り返り重視の形式へ改善。
- ・縦割り活動を通じて主体性を育成。

中学校・高等学校

【教務部】

- ・新カリキュラムの改善・改訂を実施。
- ・生徒アンケート結果では学校生活充実度が高水準を示した。
- ・自学自習環境の整備を進め、利用者増加につながった。

【進路指導部】

- ・進路講演会のオンライン化など参加機会を拡充。
- ・探究活動や外部コンテスト参加を支援し、実績向上につながった。

【生徒指導部】

- ・建学の精神に基づく指導を継続し、生徒の自律的行動を促した。

【総務部】

- ・式典・行事運営の改善を進めた。
- ・読書活動推進の全校的枠組みづくりを検討。

【広報部】

- ・説明会・個別見学会を実施。志願者数は前年度を上回った。
- ・WEB 媒体による広報活動を強化。

【保健部】

- ・支援・配慮を要する生徒への情報共有体制を強化。
- ・ケース会議や大学との連携を通じて支援体制を整えた。

【人権推進委員会】

- ・校内外研修を実施。人権作文活動を通して理解深化を図った。

【生徒会指導部】

- ・生徒主体の企画運営を推進。異学齢交流の活性化が見られた。

【国際交流部】

- ・ターム留学参加者が増加。研修先の充実を検討中。

【探究学習プロジェクト】

- ・課題解決型探究を推進。外部コンテストでの成果も見られた。

【巡回指導サポートチーム】

- ・巡回体制の強化により校内トラブル減少傾向。
- ・関係部署との定期的情報共有を実施。

【いじめ初期対応チーム】

- ・アンケート実施および組織的対応を継続。

②各校種の取り組みについてのご指導・ご意見等

- ・各校種とも年間総括が適切に行われている。
- ・校種間連携および研修体制は整備されている。
- ・教員研修では ICT・AI・特別支援・教科専門性に関するニーズが高い傾向がある。
- ・広報活動は「誰に何を伝えるか」という戦略的視点と、外部からの評価把握が重要である。
- ・ESD 分野での大学連携や国際的取組への参加を期待する。

■ 働き方に関する取組

働き方を独立した評価項目とはしていないが、各校で衛生委員会を実施し、産業医の助言やストレスチェックを活用するなど、教職員の健康管理体制を整備している。

③その他

来年度も前田先生に学校関係者評価・第三者評価委員会の委員としてご意見をいただけるよう調整した。

II 地域関係者による学校関係者評価委員会

I. 学校関係者評価実施日 …令和7年10月17日(金) 9:00~10:00

当日は、授業の様子や校舎内をご覧いただくとともに、今年度の教育活動や登下校時の児童の様子についてご意見を伺いました。

2. 評価者名 …天野イザベル文子

(登校指導サポーター, 奈良市立登美ヶ丘北中学校区少年指導協議会委員, 奈良市民生委員)

3. 評価結果

■ 授業の様子

- ・子どもたちは目的意識を持って授業に臨んでおり、主体的に学習に取り組んでいる様子が見られた。
- ・宿泊学習の事前学習では、各係が責任を持って準備や話し合いに取り組んでおり、役割を意識した活動が行われていた。
- ・PI (小学 1 年生) においても学習規律が整っており、集中して学習に取り組む姿が見られた。

■ 環境整備について

- ・教室や廊下の掲示物からは、一人ひとりの思いや学びの過程を大切にする教育姿勢が感じられた。
- ・生活科の掲示物からは、子どもたちの「書く力」が着実に育っている様子が見えた。

■ 登校の様子について

- ・登校時には、地域の方が通行される際に通行の妨げにならないよう声をかけ合うなど、周囲への配慮が見られた。
- ・今後も登下校班会などを通して、児童のリーダーシップの育成を図ることが望まれるとの意見があった。
- ・集団登校の意義(マナー・安全・安心)を改めて確認しながら、適切な指導と声かけを継続していくことが重要であるとの助言があった。

Ⅲ PTA 関係者による学校関係者評価委員会

Ⅲ-①

1. 学校関係者評価実施日 …令和7年6月12日 10:30~12:00

2. 開催場所 育友会館

3. 参加者

評価者名

川口優加子(登翔会会長)、水木真由子(高等学校副会長)、森脇珠里(中学校副会長)
佐々木雅代(小学校副会長)、大竹由里恵(幼稚園副会長)
藤村遼子・有光陽子(会計)、上田智里・今中真理子(書記)

学校園参加者

安井幸至(総括監兼中高校長)、高塚佳紀(小校長)、槇 康二(幼稚園長)、
三笥康之(高等学校教頭)、立花正幸(中学校教頭)、山川丈二(小学校教頭)
日比忍(小学校教頭) 吉岡伸幸(事務長)

4. 協議内容

- ① 校園長より登翔会本部役員へ学校関係者評価委員の委嘱を行う。

②今年度の各校園の中期計画をもとに、学校経営方針・重点目標・核となる取り組みについて説明し、令和6年度学校自己評価書に基づいて、取組と成果、改善方策等を説明する。

(資料 別紙) 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 中期計画

奈良学園小学校中期計画

奈良学園幼稚園中期計画

③ 校園長より保護者会役員へ学校関係者評価委員の依頼を行う。

④ 取り組みの進捗状況について

奈良学園登美ヶ丘の3+4-4-4のルートマップの活用について

→1 学期の間に各校種でカリキュラムについての見直しを行う。2学期に校種間をつなぐ形で教育課程部会を開催し、幼稚園～中学校・高等学校までのつながりが分かるルートマップを完成させていく予定である。

→昨年度ご意見をいただいたポロシャツの着用状況について

現在、多くの児童生徒が着用し学校生活を送っている状況である。生地やデザインについても好評である。

⑤ 質疑応答・意見交換

質問①男子用の半袖に羽織れる夏用のカーディガンの進捗状況について教えてほしい。

→現在、男子用の半袖に羽織れる夏用のカーディガンについては生地も含め検討し進めている。

質問②幼稚園の教育実習について、奈良学園大学以外の教育実習生も受け入れ可能なのか。

→時期、人数によってお断りすることがあるが、他大学からの教育実習生も受け入れている。

質問③小学校高学年の算数の宿題について難易度が高い問題が出題されている。保護者の助けがないと解けない児童も多くいると思うので検討をお願いしたい。

→宿題については、教科部会を通じて、学年に応じた内容や分量、難易度等も検討していく。また、宿題等で解けない場合にはヒントの提示や翌日の解説など丁寧な対応を心がけていきたい。

質問④宿題の適正な分量と通塾の必要性について教えてほしい。

→宿題の分量については、児童の実態に合わせながら適切な分量と内容を学年ごとに調整して出している。また、塾については、他の習い事と一緒に児童自身が通塾したいのであれば止めるものではないが、通塾しなくても小学校の授業を大切にしていけば、中学校・高等学校に進学してからも上位の成績を収めている児童は多数いる。

質問⑤幼稚園での防犯面で取り組んでいることを教えてください。

→施錠面においては、チェーンのロックを使用するなど工夫をしている。防犯研修等は、実施の方向で検討していきたい。

質問⑥幼稚園の在園児ではない保護者が専用駐車場を利用している状況があるようだが、施錠の状況はどうなっているのか。また、ルールを守らず自家用車で送迎している保護者がいるようなので周知してほしい。

→施錠の状況は、毎年新しいナンバーを設定し、安心でんしょばとにて、在園時の保護者にお知

らせている。在園児でない保護者が専用駐車場を利用している状況については、確認次第指導を行う。また、自家用車の送迎マナーについては、年度当初に配付する「登下校時の自家用車による児童・生徒送迎の自粛について(お願い)」等の啓発文章を活用し周知徹底していきたい。

意見① 高校生の自転車通学の際のヘルメットの着用の徹底をお願いしたい。

→ヘルメットをかぶることは「生徒心得」にもあるように、自転車通学の条件になっているので、指導の徹底を図っていきたい。

意見② 小学校での紺色ソックスと白ソックスの使い分けについて、明確にしてほしい。

→生活のしおりに「R7 年度より、通学時の紺の靴下は履き替えなくてもよいものとする。

合同運動会などの行事の際は、白色無地の靴下の着用を指定することがある。」と記載があるが、どの行事で白色無地なのかあいまいな部分があるため、明確に示したうえで児童・保護者へ周知していく。

意見③ 中学校・高等学校での椅子の高さについて、成長段階にあるので椅子の高さを換えられるものにしてほしい。

→学年が上がるにつれて、机・椅子のサイズは変更されていくので確認して対応する。姿勢保持は学習においても大切なことなので、予算を考慮しながらであるが、入れ替え時期には、サイズを変更できるタイプのものに変えていきたい。

Ⅲ-②

1. 学校関係者評価実施日 …令和7年10月15日(水) 10:40~12:10

はじめに、全学年の授業の様子をご参観いただきました。その後、令和7年度第1学期に実施したアンケート結果をもとに、本校の教育活動に関するご意見を伺いました。

2. 評価者 川口 優加子、佐々木 雅代(PTA 関係者)

3. 評価結果

授業参観および学校の取組に関する主なご意見

参観いただいた授業では、子どもたちが落ち着いて学習に取り組んでいる様子が見られ、教室内の掲示物などからも教育環境の充実が感じられたとの評価をいただいた。

また、ザリガニや大根の観察・写生など、体験を通して学んだ成果が作品として表現されており、子どもたちがいきいきと活動している様子が伝わってきたとの感想があった。

国語の「くじらぐも」「お手紙」「ごんぎつね」などの授業については、開校以来受け継がれてきた本校の学習体制の良さを改めて感じる事ができたとの評価をいただいた。

■学校の取組についてのご意見

【学習習慣の定着について】

・2年生から自主学習に取り組んでいる点について、「自分は何をすべきか」を自ら考える習慣は、中学校・高等学校での学習につながる大切な土台であるとの評価をいただいた。

- ・過去にはポイント制の導入や朝の会での紹介など、子どもたちの意欲を高める工夫が見られたことにも触れられ、現在取り組んでいる「ぐるぐる自学」もその流れの中で実践されている取組として受け止められているとの意見があった。
- ・自主学習の進め方や具体的な取組例を家庭に共有することで、保護者も適切な助言を行いやすくなるのではないかと意見があった。
- ・アンケート項目が「進んで家庭学習をしている」となっているため、家庭によって受け止め方に差があり、「あてはまる」を選びにくい場合もあるのではないかと指摘があった。
- ・漢字ドリルやドリルノートの内容について、以前の形式とは異なり上位学年の内容（音読み・訓読みなど）を扱わない部分があることについて、保護者へ丁寧な説明を行うことが望ましいとの意見があった。学習内容の変更については、保護者の理解を得るための説明が重要であるとの指摘であった。

【その他（内部進学・行事・持ち物等について）】

- ・内部進学に向けて、学習の定着状況やつまずきについて、より早い段階で保護者と情報共有してほしいとの要望があった。
- ・登校時の安全確保の観点から、サブバッグを手持ちではなく斜めがけなど両手が空く形に変更できないかという提案があった。
- ・MI 広島宿泊学習における新大阪駅までの移動方法について、以前のようにバス利用が可能かどうか検討してほしいとの要望があり、保護者の送迎負担への配慮が必要ではないかとの意見があった。

Ⅲ-③

1. 学校関係者評価②実施日

令和8年2月3日（火） 9:50～11:10

はじめに、M2 音楽「雅楽」の出前授業、P1・P2 の国語・算数、M1 の英語の授業の様子をご覧いただいた。その後、本校の今年度の取組に対するご意見を求めた。

2. 評価者

川口 優加子、佐々木 雅代（PTA 関係者）

3. (1) 授業についての意見

- ・児童は普段どおり落ち着いて授業に取り組んでおり、全体として穏やかな学習の様子が見られた。
- ・雅楽の授業は、日本の伝統文化や地域としての奈良への理解や愛着を育てる取組として評価された。
- ・国語や算数の授業では、具体物の活用や動作化を取り入れるなど、児童が理解しやすい工夫がなされている点が良いとの意見があった。

(2) 学校の取組についての意見

- ・令和7年度の学校の取組については、概ね好意的に受け止められているとの意見が多かった。
- ・高学年になるにつれ、学習内容の難化、友人関係の複雑化、進路意識の高まり等により、保護者の不安が高まり

やすい傾向があるとの指摘があった。そのため、丁寧な説明に加え、中学・高校での学習や生活を見据え、小学校段階で身につけておくべき学習習慣や心構えについて、具体的な助言を求める声があった。特に、小テストで満点を目指してやり抜く力や、中間・期末考査前の計画的な学習方法を身につけることが、中学・高校進学後に主体的に学習を進める上で重要であるとの意見が出された。

- ・「生活のしおり」に記載されているきまりについては、内容が細かくなりすぎると徹底が難しくなるため、きまりの必要性や目的を踏まえて整理・検討していく必要があるのではないかとの意見があった。
- ・学習の定着状況や到達度の伝え方については、一定の評価がある一方で、「どこまでできているのか分かりにくい」「課題が見えにくい」といった意見も引き続き見られた。授業に対する満足度は高いものの、その成果や児童の成長・変容が十分に伝わっていない点が課題として挙げられた。